

私の一日は、タブレット端末「iPad (アイパッド)」でスタートする。目覚めると血圧測定アプリを使い、ニュースアプリで世の中の動きを知る。散歩に出掛ければ、折々の近所の風景などを写真や動画に収め、インターネット交流サイト「フェイスブック(FB)」に投稿する。仕事中、移動中にも活用している。

そんな中、人生の最終章への希望をまとめるエンディングノートの電子版「私ノート」を、iPad無料アプリとしてつくった。2013年夏からApp Storeで配っている。

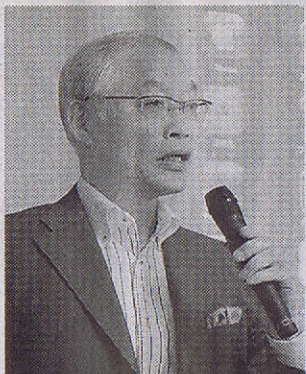
家系図をまとめたり、古い大切な写真や動画を保存したりと、従来、紙媒体では難しかった作業が簡単にできる。死は誰にでもやって来るし、避けられない。だからこそ、残された人生を心豊かに前向きに生きていくため、家族や子孫に命の継承をしていくために、タブレット端末の操作を楽しみながら、「老いじたく」をしていただきたいと願っている。

大多数のシニア世代がパソコンに苦手意識を抱いているのは事実だろう。だが、タブレット端末は、パソコンと違って、

端末一つで心がつながらる

デジタルマーケティング
会社社長

藤澤 修三氏



ふじさわ・しゅうぞう 1948年、長崎市出身。群馬県高崎市立高崎経済大学卒。45年間福岡市の広告マスコミ業界に従事。3年前にシニアに特化したデジタルマーケティング会社「デジアド株式会社」を設立。

スマートなシニアを目指そう

指先感覚で操作できる。赤ちゃんの目の前に置いたとき、パソコンは操作できなかったが、タブレット端末なら扱えたという実例もある。指先を使うことは脳を刺激し、認知症予防にももってこい。実は、タブレット端末とシニア世代の相性は抜群にいいのだ。

確かに、使い始めの設定など、ハードルはある。だが、それさえ乗り越えれば、指先感覚で操作するタブレット端末は予想以上に直感的で右脳を刺激し、覚えれば覚えるほどワクワク感が増大する。

タブレット端末の上達のためには、面と向かって直接習うのが一番だ。シニア世代への講座も行っているが、学んだシニアの方が、その教室で教える立場になった、という好循環が生まれている。

シニア世代にとって、それは世界を広げることになる。バーチャル井戸端会議といえるFBを活用すれば、見知らぬ人とも互いの趣味などを投稿し、その評価を「いいね」というボタンで押し合うことで心がつながらる。現実世界では予想できなかった友達の輪や絆を広げられるのだ。無料のテレビ電話アプリによって海外の孫と会話を楽しむこともできる。足腰が弱り、独り暮らしをしているシニア世代にも世界的な交流ができる。

超高齢社会となり、急速なデジタル社会が到来している中、こうしたタブレット端末を使いこなす元気なシニアの増大は、社会的にも経済的にも意義あることなのだ。

